

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 北九州市立すがお小学校

(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他(例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒803-0264

福岡県北九州市小倉南区山本393-6

E-mail sugao-e@kita9.ed.jp

Website http://www.kita9.ed.jp/sugao-e/

幼児児童生徒数 男子 36 名 女子 38 名 合計 74 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### 目標

当校は、地域に根ざした体験型学習として、無農薬農法による農園活動を総合的な学習の時間に生かしながら推進することを学校理念とし、地域に学びながら大地と触れ合い、伝統の継承と、大地の恵みや地域の方への感謝の心を育成し、自らの生活の在り方を主体的に探究していった。ESDを自然に関わる事物・現象を多面的、総合的に見たり考えたりすることができるようにすると捉え、このことで、ESDの要素である有限性を意識し、持続可能な社会の構築に向かう実践力を高めることができるようにすることを目標にした。具体的には、以下の内容を柱に学習を行った。

### 2 ESDの要素と重視する能力・態度

#### ① ESDの要素

##### <多様性>

私たちの生活環境は様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在する。そうした生態学的な多様性を尊重するとともに、自然に関わる事物・現象を多面的、総合的に見たり考えたりすることができるようにすることが大切である。

##### <有限性>

自然環境や資源は有限である。この有限な自然環境や資源を将来世代のために維持し、有効に使用していくことが求められる。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切である。

##### <連携性>

持続可能な社会の構築・維持は、環境保全と開発側とが相互に意見を尊重し、連携・協力していく必要がある。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、順応したり、調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切である。

## ② ESDの視点に立って重視する能力・態度

### 【多面的、総合的に考える力】

子どもたちが、学習材を通して、主体的に探究的な学習を展開することで、郷土の「ひと・もの・こと」とのつながり・関わり・広がりを理解し、それらを多面的、総合的に考える力を育てることができる。

### 【コミュニケーションを行う力】

体験的な活動の過程で、友達や地域の方と交流する中で、自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを受け止めたりすることができ、積極的にコミュニケーションを図ることができる。

### 【他者と協力する態度】

体験的な活動を友達と協力して取り組んだり、地域と連携して調査活動などを行ったりすることができる。また、学んだ事実や考えたことなどについて、友達と役割分担をして、情報発信に取り組むことができる。

### 【進んで参加する態度】

自分の役割に責任をもって体験的な活動をしたり、地域の一員としての自覚をもって主体的に郷土や学校の伝統を大切にする活動を行ったりすることができる。

本校では、上述のねらいに従い、様々な教育活動を展開している。その中で学校全体、あるいは学年でねらいに沿いながら、割り振って活動を行った。

## ①【進んで参加する農園に係わる活動】

各学年の代表的な学習活動を以下に示す。

・4月 農園整備〈5、6年生〉堆肥まきや耕し、マルチ張りなど、農園の整備を児童自らが行った。

・5月① 夏野菜栽培〈全児童〉1人1苗の夏野菜を決め、各自が責任をもって夏野菜を栽培した。

## ②【他者と協力する態度と教育】

・5月紫川清掃〈全児童〉保護者や地域の方による除草作業と児童の清掃活動で、地産地消の根幹となる水資源である紫川の保全活動に取り組んだ。

・6月 田植え〈5年生〉・麦刈り〈2年生〉・サツマイモの苗植え〈全児童〉・田植えは、児童が自ら稲粃から発芽させて育てた苗で行った。麦刈りは、児童が1年生の時に種まきして育ててきた麦で行った。刈った麦藁は、畑の雑草除けとして畝に敷き、肥料として活用した。サツマイモの苗植えは、児童が異学年縦割り班に分かれ協働で行った。

・7月 大豆植え〈3年生〉・味噌作りに向けて、大豆を栽培する。

・9月 冬野菜栽培〈全学年〉・11月の「ふるさとふれあい収穫祭」に向け、例えば「4年生が人参を育てる」というように、学年ごとに担当する野菜を栽培した。その際、生育初期の段階で防虫剤として竹酢液を薄めたものを散布した。

この竹酢液は、5年生が紫川浄化に向けた竹炭作りで作ったものである。過程で出たもので、環境に優しい防虫剤である。

・10月 稲刈り〈5年生〉・地域の方に学びながら、栽培してきた稲を収穫し、陰干しと脱穀を行った。・秋のイモ掘りは、地域の方や特別支援学校の児童を招待して行った。

### ③【コミュニケーションを行う力】

- ・ 11月 ふるさとふれあい収穫祭〈全児童〉・ 各学年が収穫した冬野菜や小麦を使ってだんご汁を作った。味付けに使う味噌は、1年前に3年生が大豆から作ったものを使用した。5年生は、収穫した米でご飯を炊いた。そして、保護者や地域の方などを招いて収穫祭を開催した。会食前の全体会では、児童が農園活動で学んだことなどを保護者や地域に発信する。
- ・ 12月 たくあん作り〈6年生〉 ・ しめ縄作り〈5年生〉 地域の方に学びながら、地域の伝統文化であるたくあん作りやしめ縄作りを行った。
- ・ 1月 たくあん販売と義援金の送付〈6年生〉・ 保護者や地域の方に呼びかけ、手作りたくあんを販売し、収益の全額は、交流をしている岩手県大沢小学校へ復興のエールとともに義援金として贈った。
- ・ 2月 高菜漬け〈4年生〉 地域の方に学びながら、地域の伝統文化である高菜漬けを行う。

### ④【多面的、総合的に考える力】

- ・ 3月 1年間の取組の発信〈3年生以上〉・ 体験型農園学習を通して学んだことや考えたことを新聞にまとめ、低学年児童をはじめ、保護者や地域の方などへ発信した。



①【進んで参加する農園に係わる活動】

②【他者と協力する態度と教育】



③【コミュニケーションを行う力】

④【多面的、総合的に考える力】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特にありません。
----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、北九州市が主催している、総合的な学習の時間のアクティブ・ラーニング推進校であるので、④【多面的、総合的に考える力】を各学年において、生活科や総合的な学習の時間において教育課程の中で位置付け、探究的・協働的な学習のさらなる充実に向け、子どもが思考スキルを意識して様々な思考ツールの中から必要に応じて選択したり、自ら適切な思考ツールを創り出したりすることができるようにしている。このことで、知の総合化を図り、確かな学力の向上を目指していく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本年度は特に課題の設定場面や情報の整理・分析場面において思考ツールを効果的に活用し、子どもの「何を学ぶか」「どうやって学ぶか」という念頭のイメージを可視化し、相互に考えを伝え合うことに有効であったことを実証することができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

① 成果

- 導入段階において子どもたちが育てている作物は、当たり前のように育つわけではなく、先輩や地域の方が守り、育てている地域の産物は大地の恵みであることや大事に育てるための方法があることを認識することができた。この問題提起によって、この問題が自分たちの追究課題になり、主体的に探究していく学習になった。

② 課題

- 今回、思考ツールを活用し課題について考えたり、思考ツールを活用したりしてブランド化するための作戦を具体的に考えていったが、思考ツールを活用することで、今後の活動や見通しをもった学習につながることを認識した。今後、子どもの実態に合った、整理・分析段階での思考ツールの活用方法の工夫をすることが、必要であることがわかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

生活科、及び総合的な学習の時間の実践単元と関係・関連する教科等の学び方・考え方を、学習指導要領を基に教科用図書や資料から深く教材研究し、実践研究発表会を通して、探究活動を充実させることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティである、市民センターや社会福祉協議会等との連携・協力は行われている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

当校は、教育委員会主催のもと、管理職等での市内の他のユネスコスクールとの中間報告や交流会は行われているが、ユネスコスクール同士の交流まで至っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

子どもは地域の「ひと・もの・こと」に学びながら大地と触れ合い、その過程でふるさとすがおへの愛着とともに、大地の恵みや地域の方への感謝の心を育成し、未来を切り開こうとする自らの生活の在り方を追究していった。そして、食習慣の改善のように苦手なことでも克服しようと努力したり、地域へのかかわり・つながりを尊重して行動したりすることができるまでになった。まさに、「持続可能な社会の構築に向かう「実践力」を高めることにつなげることができた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

次年度は、今年度の実践の方向性として掲げた探究的・協働的な学習過程で、子どもの「郷土の人々や自然、伝統、文化を尊重し、かかわり、つながりながら、ふるさとであるすがお校区を中心とした地域全体のよさや素晴らしさを体感することができるようにすることを継続・発展していく。

また、郷土への愛着を感じ、やる気と自信をもち、将来的に自らふるさとを創る実践的な態度や資質、能力を育むことができるようにする。

これは、北九州市教育大綱の理念である「シビックプライドの醸成」と合致していると考えている。